

## 2018年3月期第1四半期 決算説明会 質疑応答

2018年8月8日に開催した決算説明会における主な質疑応答は下記の通りです。なお、記載内容につきましては、ご理解いただきやすいよう一部に加筆・修正をしております。

Q1：愛鷹工場の出荷遅延について、なぜこのようなことが起こったのか？それに対して、現在の状況は？

A1：愛鷹工場の生産能力増強を進める中、同工場の滅菌工程の最適性を評価する手法において、確認すべき事項があることが判明したため、社内の品質管理システムに基づき、5月下旬に製品の出荷を一旦停止した。医療機器の滅菌工程は、大きく分けると、①工程の最適性を評価する手法の適合性と、②無菌性確認をすること、の2つの要素がある。今回確認が必要だと判断されたのは①の評価手法の方であり、より精緻化した方が良好であろう箇所が見つかったため。社内で規定した品質システムに従い、確認が完了するまで、出荷を一時的に停止した。

評価手法の確認が済んだ製品から順次出荷を再開しており、本日8月8日時点で、愛鷹工場総体の滅菌能力は、停止以前のレベルまでに回復している。

Q2：愛鷹工場の出荷遅延について、医療現場ではどのような対応をおこなっているのか？また、本件による顧客ロスほどの程度見込んでいるのか？

A2：医療現場の影響を最小限にするため、あらゆる手段を尽くしている。品薄状態の場合は、他のメーカーに代替品供給の協力依頼などもおこなっている。

日本においては、充実した販売体制を有する中、病院間における在庫移動などMRによる、きめ細やかな対応を行っている為、中期的な顧客ロスは限定的と期待している。一方海外においては、地域や販売経路（直販か代理店経由）によって、状況は様々なため、現時点で正確に見通すことは難しい。それでも一定の顧客ロスはあるとみている。テルモのTIS事業の強みは、品質とトレーニングであり、これらの点は今回影響を受けておらず、今後も最大限活用し影響を最小化していく。

Q3：愛鷹工場の出荷遅延について、6月の海外売上には大きく影響していないということだが、第1四半期のカテーテル売上では、欧州で2%、米州で6%と伸び率としては物足りないように感じる。愛鷹工場の出荷遅延が理由でなければ、何が要因なのか？

A3：海外において、愛鷹工場の出荷遅延の影響の程度については、直接的な要因以外に売り控えなどの間接的な要因も考えられ、確認や算出が非常に難しい。買収効果が強かった前年度の第一四半期と比較すると、海外カテーテルの伸長率は物足りなく見えるが、ほぼ計画通りにスタートしている。

Q4：2018年度第1四半期の薬剤溶出型冠動脈ステント（DES）のグローバルの売上は？

A4：グローバルの売上は約40億円、前年同期比18%の減収。この主な要因は、公定価改定の影響と、国内における他社新製品の上市による影響が挙げられる。4月に、当社新

製品「Ultimaster Tansei」を欧州で発売した。今年度下期に日本でも発売する予定なので、これにより国内シェアの回復を図っていききたい。

Q5：循環器関連学会による PCI（経皮的冠動脈インターベンション治療）適応の適切性基準（AUC）が策定されたことによる影響を受けているか？

A5：総体として変わっていない印象を持っている。症例数が減った施設もあると推察するが、高齢化に伴い全般的に疾病が確認されるケースは増えており、これらが互いに相殺され、日本全体における PCI 件数は横ばいとみている。当社の PCI 症例数の指標として使われる、ガイディングカテーテルや IVUS カテーテルの推移を確認しても、減少は見受けられない。

Q6：第2四半期の業績予想の修正について、売上収益の修正額をマイナス110億円、営業利益の修正額をマイナス65億円としているが、第1四半期と第2四半期への振り分けはそれぞれどの程度か？

A6：ほとんどが第2四半期と捉えてもらって問題ない。

以上